

機関投資家・アナリスト様向け決算説明会

2019年3月期 決算および今後の成長戦略

2019年5月15日

証券コード：4326

- 2019年3月期 決算の状況
- 第12次中期経営計画【2018年度】振り返り
- 第12次中期経営計画【2019年度】戦略ポイントほか
- トピックス
- 決算期変更および2020年3月期 業績見通し（連結/セグメント別）
- 株主還元について

2019年3月期 決算の状況

連結損益計算書サマリー

売上高は既存事業の順調な積上げおよびM & Aが寄与し、営業利益については、投資を着実に実行しつつも、特に期末の追い上げの貢献もあり前年比・計画比ともにプラスとなり、増収増益の着地となった。

(百万円)

	18/3実績	19/3実績	対前年比	予想	対予想比
売上高	50,499	53,986	+6.9%	53,000	+1.9%
営業利益	4,023	4,268	+6.1%	4,200	+1.6%
経常利益	4,311	4,215	△2.2%	4,250	△0.8%
親会社株主利益	3,050	2,859	△6.3%	2,900	△1.4%
EPS (円)	76.08	69.47	—	—	—
ROA (%)	7.6	6.6	—	—	—

(注) EPSの数値は、2017年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行った影響を加味しております。

連結貸借対照表およびキャッシュ・フロー計算書サマリー

(百万円)

連結貸借対照表要旨	18/3	19/3	増減	摘要
流動資産	26,639	27,822	+ 1,183	新規の連結子会社増加による資産の増加
固定資産	14,847	17,701	+ 2,854	投資有価証券の増加、新規連結によるのれんの増加
資産合計	41,486	45,524	+ 4,037	
流動負債	11,601	13,962	+ 2,360	コミットメントライン借入増加、新規連結による負債増加
固定負債	2,456	2,574	+ 118	
負債合計	14,057	16,536	+ 2,478	
純資産合計	27,428	28,987	+ 1,558	主に親会社株主利益による利益剰余金増加
負債純資産合計	41,486	45,524	+ 4,037	

連結キャッシュ・フロー計算書要旨	18/3	19/3	増減	摘要
営業キャッシュ・フロー	3,188	4,279	+ 1,091	主に売上債権の減少額の増加
投資キャッシュ・フロー	△2,414	△4,087	△1,672	連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出の増加
財務キャッシュ・フロー	399	△58	△457	
現金及び現金同等物に係る換算差額	10	△35	△45	
現金及び現金同等物の増減額	1,183	98	△1,085	
現金及び現金同等物の期首残高	10,418	11,622	+ 1,203	
現金及び現金同等物の期末残高	11,622	11,720	+ 98	

セグメントの状況

3セグメント全てにおいて増収増益を達成。

おおむね計画通りの着地となったが、特にヘルスケアセグメントはM & A効果もあり、売上だけでなく利益も前年比で二桁増。

(百万円)

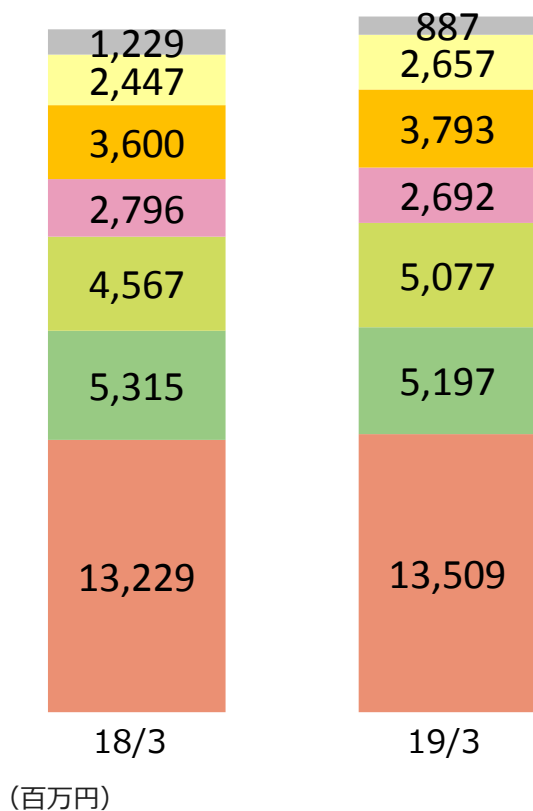
		18/3実績	19/3実績	対前年比	予想	対予想比
マーケティング支援 (消費財・サービス)	売上高	33,186	33,815	+1.9%	35,000	△3.4%
	営業利益	2,165	2,211	+2.2%	2,200	+0.5%
マーケティング支援 (ヘルスケア)	売上高	11,070	13,086	+18.2%	11,500	+13.8%
	営業利益	1,412	1,604	+13.6%	1,550	+3.5%
ビジネスインテリジェンス	売上高	6,243	7,084	+13.5%	6,500	+9.0%
	営業利益	446	452	+1.4%	450	+4.4%

セグメント別の状況 マーケティング支援（消費財・サービス）

主な業界

消費財・耐久消費財・
サービス・官公庁

商品別売上



増収増益

パネル調査が堅調に推移。カスタムリサーチはWEB調査以外のカスタムリサーチが好調で、特にプロダクト評価を主としたCLT（※）や日系企業からの海外における調査、(株)インテージリサーチにおける官公庁案件が売上に寄与。利益はSRI+に係る設計及び開発等の投資を着実に実行しつつ増益を達成。

※CLTはCentral Location Testの略語で、会場に対象者を集めて調査する手法
(百万円)

	18/3	19/3	前年同期比
売上高	33,186	33,815	+1.9%
営業利益	2,165	2,211	+2.2%

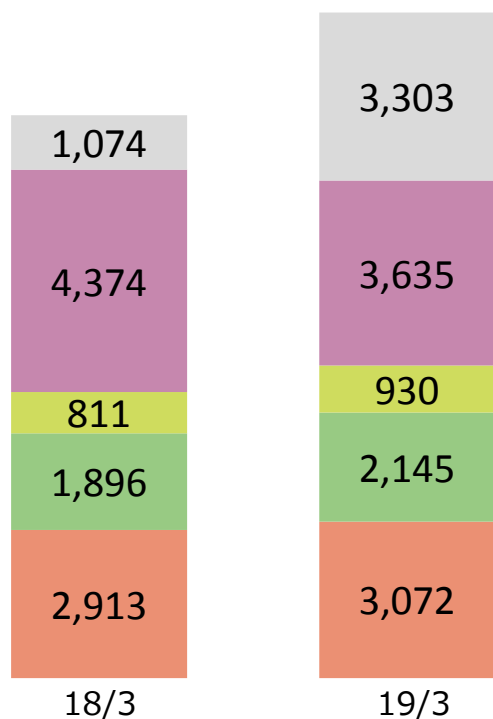
- その他
- 官公庁案件、コンサルティング
- 海外：海外子会社の売上（ヘルスケア除く）
- Co：コミュニケーション分野（i-SSP、対話型プロモーション、di-PiNKなど）
- CR-Web 以外：Web調査以外の手法によるカスタムリサーチ（定性調査、オフライン調査、アウトバウンドなど）
- CR-Web：カスタムリサーチのWeb調査
- パネル調査：SRI、SCIなど

セグメント別の状況 マーケティング支援（ヘルスケア）

主な業界

製薬メーカー

商品別売上



(百万円)

増収増益

(株)アンテリオにおいて医療用医薬品に係るカスタムリサーチ及び一般用医薬品に係るパネル調査が年間を通じて好調に推移。また、(株)協和企画、ジュニコン(株)のM & A効果も売上に寄与。(株)アスクレップはメインの業務であるCRO（医薬品開発業務受託機関）の製造販売後調査について安全性管理業務などの案件獲得に尽力したが、前年割れの結果。CROの売上減少の影響は受けたものの、売上の増加に伴い、利益も大きく増加し着地。

(百万円)

	18/3	19/3	前年同期比
売上高	11,070	13,086	+ 18.2%
営業利益	1,412	1,604	+ 13.6%

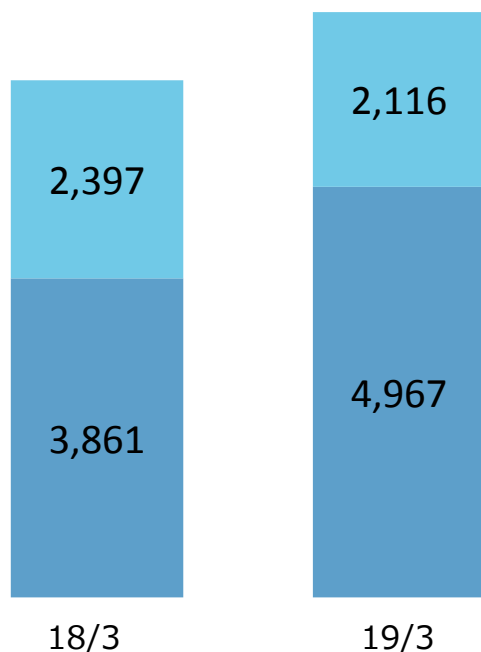
- その他：(株)協和企画(18/9にM&A)、海外子会社のヘルスケア売上など
- CRO(医薬品開発業務受託機関)：製造販売後調査(ADDINシリーズ含む)など
- CR-Web以外：Web調査以外の手法(定性調査など)によるカスタムリサーチ
- CR-Web：カスタムリサーチのWeb調査
- パネル調査：SDI、SRI、Impact Trackなど

セグメント別の状況 ビジネスインテリジェンス

主な業界

旅行・製薬・
健康情報サービスなど

分野別売上



(百万円)

増収増益

生命保険分野での開発案件及び旅行分野での開発案件並びに運用案件増加に加え、子会社化した(株)ビルドシステムおよびエヌ・エス・ケイ(株)の貢献により売上が伸長。利益は売上の堅調な伸びが貢献し増益。

(百万円)

	18/3	19/3	前年同期比
売上高	6,243	7,084	+ 13.5%
営業利益	446	452	+ 1.4%

- **ヘルスケア**：医薬、健康情報サービス、データセンターなど
- **国内CG&S**：旅行、教育、流通、生保など

株式会社インテージテクノスフィアの事業内容

インテージグループのシステムソリューションを担う。システム構築および運用、データセンター運用に加え、ビッグデータ高速処理基盤の構築にも取り組む。
ソリューション例：旅行代理店向け精算システム、健康管理支援サービス、製薬企業の営業情報システム、出版POSシステム、商圈分析、AIソリューションなど

※CG & S...Consumer goods and serviceの略で、消費財 & サービスのこと

第12次中期経営計画

【2018年度】振り返り

第12次中期経営計画【2018年度】振り返り

第12次中期経営計画

【グループ基本方針】

“Take the Initiative” ～データ活用の領域で先手を取れ～

【目指すべき姿】

グループの持続的成長を確実なものに
お客様の「情報」パートナーへ、そして「戦略」パートナーへ進化

【経営計数目標（2018年度）】

連結営業利益率 8%水準 / 売上高 R & D 経費比率 2%水準

【戦略ポイント（2018年度）】

1. 成長ドライバー創出に向けた研究開発の更なる多産と確実な展開
2. ビジネス領域の進化とデータ価値向上の実現に向けた確実な遂行
3. 働き方改革の加速

第1 2次中期経営計画【2018年度】振り返り

内容	成果
連結営業利益率および売上高 R & D 経費比率	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 前年に続きSRI+ やR&Dなど、中長期的な事業成長に向けた投資を着実に遂行。連結営業利益率については7.9%とおおむね目標通り。
成長ドライバー創出に向けた研究開発の更なる多産と確実な展開	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 開設2年目を迎えたR&Dセンターは、グループ間の垣根を越えた体制が定着。POCも多産され、具体的な成果が出始めている。 ✓ INTAGE Open Innovation Fundの投資先はトータルで20社となり、投資先分野も既存事業との関連性が強い分野を中心に幅広く実行 ✓ 滋賀大学および武蔵野大学と産学連携に関する基本協定を締結。ビッグデータとAI技術によりイノベーションを起こすビジネス力を持った人材の育成を目指す。
ビジネス領域の進化とデータ価値向上の実現に向けた確実な遂行	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 主力商品であるSRI(全国小売店パネル調査)をリニューアル、名称はSRI+に決定。予定通り2019年1月からテストデータの提供を開始しており、2020年以降の本格展開に向けた準備を着実に実行中。 ✓ 機器ログデータを人ベースに推計分解するダイナミックパネル技術を開発し、その第一弾としてスマートテレビ視聴ログ(Media Gauge TV)に適用し、リリース
働き方改革の加速	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 昨年から導入したフルフレックス・リモートワークは着実に浸透しつつある。その他、能動的な機会創出の取り組みとしてe-Learningプラットフォームの導入や、AIチャットボットの検証も実施。

第12次中期経営計画

【2019年度】経営計数目標および戦略ポイント
各セグメントの成長戦略【2019年度】

第1 2次中期経営計画【2019年度】経営計数目標および戦略ポイント

2019年度も、2017年度策定の第1 2次中期経営計画をベースとした各種施策を確実に実施・展開していくステージ

【経営計数目標（2019年度）】

連結営業利益率8%水準および売上高R&D経費比率2%水準の継続(※)

※投資は引き続きR&DおよびSRIリニューアル関連を中心に実施予定

【戦略ポイント（2019年度）】

1. 成長ドライバー創出に向けた研究開発の多産継続と事業への展開
2. データ価値向上を果たすビジネスアクションの確実な遂行と見極め
3. 真の働き方改革へ向けた意識改革

各セグメントの成長戦略【2019年度】

マーケティング支援（消費財・サービス）

国内

カスタムリサーチの成長と収益力の強化
広告主のためのコミュニケーション支援事業の育成
SRI+の確実なローンチ、Phase 2（※）の事例創出と流通領域事業の展望

海外

旧来型カスタムリサーチに依拠しない事業領域の開拓
国境を越えたリージョナル営業体制の稼働
各現地法人開拓の営業強化

※Phase 2：まずPhase 1で、SRIの市場反映性およびデータ精度の向上による価値向上を目指し、その先のPhase 2では、様々なビッグデータとの統合による新サービスの開発等を予定。

マーケティング支援（ヘルスケア）

ヘルスケア業界の4つの環境変化に対応したアセット・サービスの統合

変わる薬の価値	生活者に関するアセットおよび医療経済分析融合によるインサイト
製薬企業のプロモーション規制	市場調査、臨床開発、エデュケーション事業のシナジー発揮
製造販売後調査のビッグデータ活用	リアルワールドデータの活用や解析による生産性の向上
セルフメディケーションの流れ	医療用・OTC医薬品、処方箋データや調査によるインサイト

ビジネスインテリジェンス

AIワンストップソリューションをコアにした新規領域の拡張
トータル対応力（AI/SI/BPO/データハンドリング）を強みとした既存事業ビジネスの拡張
アセット強化に向けたM&A継続

トピックス

S R I +の進捗および E C データサービス

iTree

Media Gauge Dynamic Panel

INTAGE Open Innovation Fundの投資状況

SRI+の進捗およびECデータサービス

SRI+ プラス

- ・ 12次中期経営計画における大きな投資の一つ
- ・ 既存顧客における活用機会の拡大、新規顧客層の獲得を目指す
- ・ テストデータ提供は予定通り2019年1月にスタート済
- ・ SRI+のPhase2における顧客ニーズの探索
- ・ 2020年以降の本格提供に向け、開発等を継続中

ECデータサービス

- ・ SRI+の業態の一つとして、ECデータサービスもリニューアル
- ・ 現行ECパネルで提供していた紙おむつ、ペットフード、医薬品に加え順次品目拡大を図る。本年度、順次テストデータ提供開始



変更点

- ・ 商品不明率が大きく改善し、市場反映性が向上

	金額ベース		個数ベース	
	現行ECパネル	SRI+ ECデータ	現行ECパネル	SRI+ ECデータ
【例】紙おむつ	約30%	約1%	約25%	約1%

※ ECにおける販売では、商品にSKU (Stock Keeping Unitの略。最小管理単位) 不明のケースが多く商品特定が難しいが、SKU以外の情報から商品を特定する仕組みを導入したほか、各種データクリーニングにより、より実態に近い販売データの推計を実現。なお、対象はBtoCかつ原則新品(一部中古)

お客様のデータ統合のニーズに対応、かつ、データ分析を自動化し、マーケティング業務におけるデータ活用と生産性向上を支援



全国小売店
パネル調査



全国消費者
パネル調査

SPI

全国店頭
プロモーション
調査

SCI
Profiler

価値観
ライフスタイル
メディア情報



各種アンケート
調査データ

統合・一元化



iTree

汎用データ統合分析ツール (アプリケーション)

【ブランド監査～施策プランの工程】

Before

仮説出し

調査会社
へ発注

実査・
集計

分析・
読み込み

要因
特定

施策
プラン

大幅に短縮

After

仮説出し

iTree
トラッキン
グナビ

実査・
集計

施策プランや商品開発、分析の深堀へ

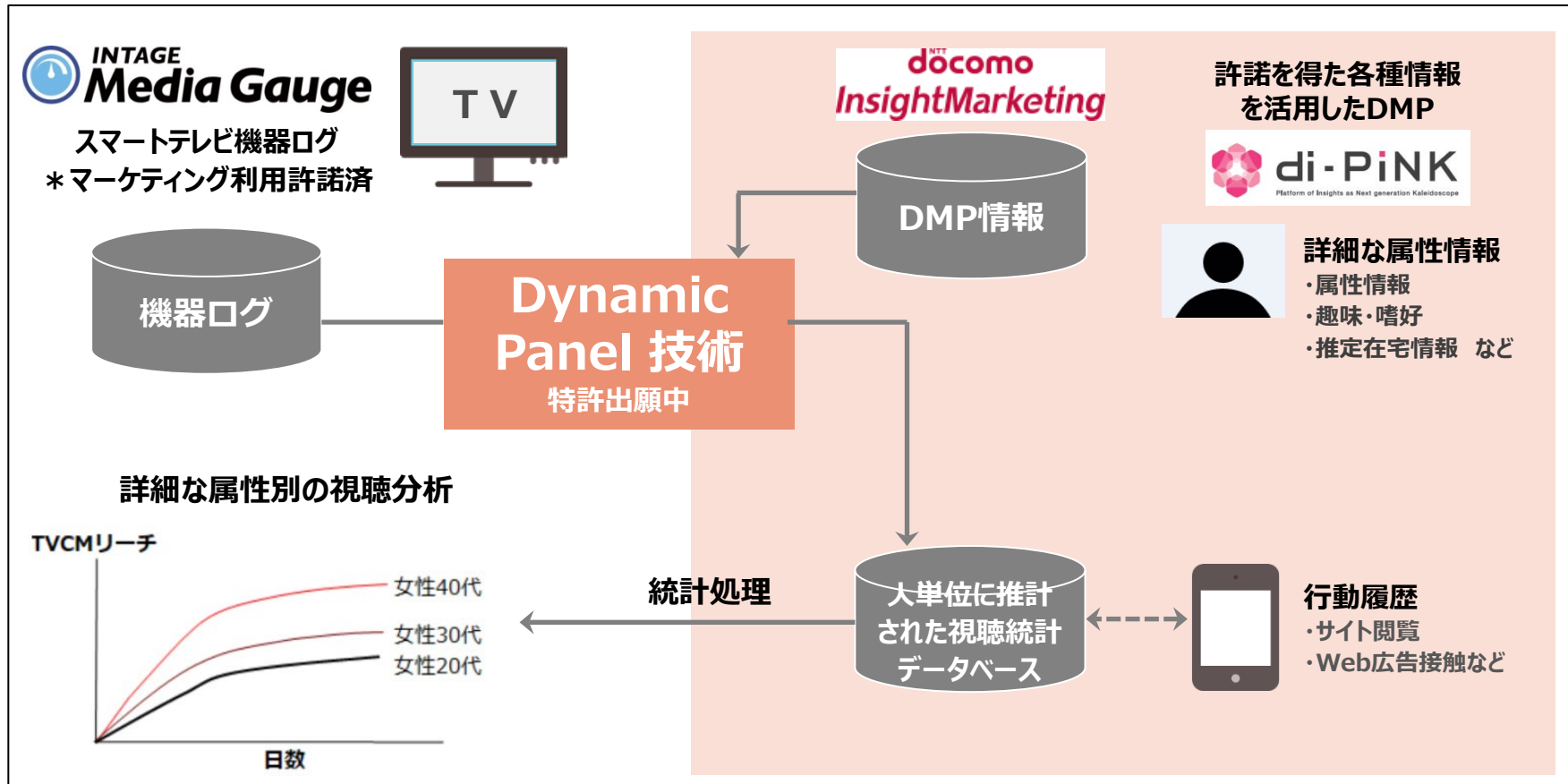
Media Gauge Dynamic Panel

(メディアゲージダイナミックパネル)

* Media Gauge Dynamic Panel ロゴは
2019年5月15日現在作成中

機器ログデータを人ベースに推計分解する技術“ダイナミックパネル技術”を開発

第一弾としてスマートテレビ視聴ログに適用



* Media Gauge Dynamic Panelの提供物は、匿名化・統計化されたレポートとなります。
この提供物によって、個人の特定につながることはありません。

INTAGE Open Innovation Fundの投資状況

2019年4月時点で20社の企業に対し約21.6億円を投資

投資先

マーケティング



Research & Innovation



Payke



XICA



BitStar
BitStar inc.



CROSS BORDER AGE

AI



connectome.design



AI CROSS

画像・映像技術



webrage



2501

生活



every.tv



meuron

ヘルスケア



Dr. JOY



QD LASER



MentalHealth Technologies
メンタルヘルステクノロジーズ Co., Ltd.



FiNC

ビッグデータ



EverySense



DataSign tamr

CVCファンド概要：2016年10月14日にSBIインベストメント株式会社と共同設立。運用期間5年、ファンド規模は50億円。インテージグループの既存及び新規事業領域におけるアライアンス、先端技術分野における共同R&Dを目的に、国内外の有望なベンチャー企業を対象としている。

決算期変更および

2020年3月期 業績見通し（連結/セグメント別）

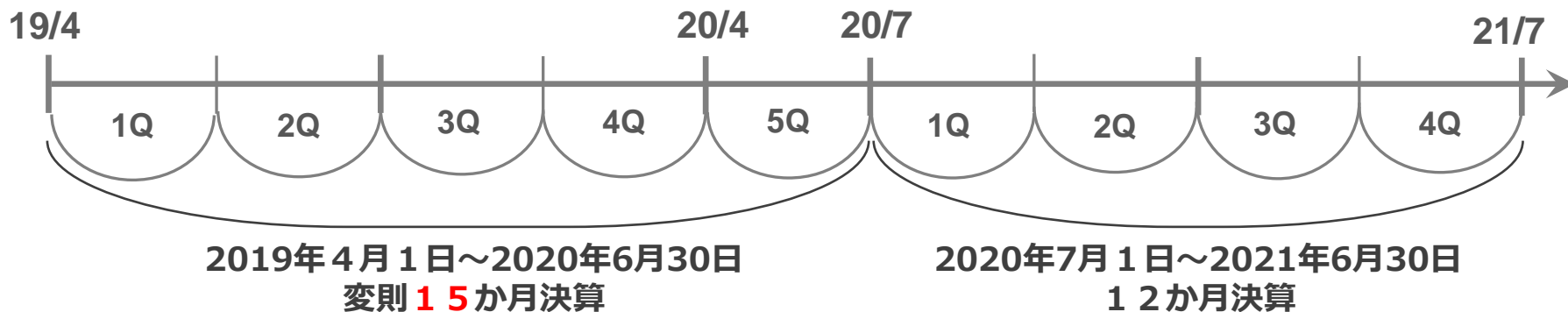
決算期変更について

本年6月26日定時株主総会における定款一部変更の件について承認されることを前提として、決算期変更を実施

期末決算日
3月31日



期末決算日
6月30日



2019年4月1日～2020年6月30日
変則15か月決算

2020年7月1日～2021年6月30日
12か月決算

業績予想（15か月分）	確定次第公表いたします。12か月（2019年4月1日～2020年3月31日）分の業績予想については、5月10日の短信にて公表済。
配当（期末）	5月10日の短信にて公表済。P24ご参照。次回の配当支払時期は、2020年9月となります。
株主優待	現状中間期の株主名簿に記載された株主様が対象。詳細につきましては、決定次第公表いたします。
その他	2020年の定時株主総会は9月に変更となります。機関投資家・アナリスト向け決算説明会についても、2019年度の期末は8月、第2四半期は2月を予定。

2020年3月期見通し（連結/セグメント別）※

※決算期変更に伴う2020年6月の業績予想は確定次第公表いたします。

(百万円)

		19/3実績	20/3予想	対前期比
連結	売上高	53,986	59,000	+9.3%
	営業利益	4,268	4,550	+6.6%
	経常利益	4,215	4,500	+6.8%
	親会社株主利益	2,859	3,000	+4.9%
マーケティング支援 (消費財・サービス)	売上高	33,815	35,800	+5.9%
	営業利益	2,211	2,250	+1.8%
マーケティング支援 (ヘルスケア)	売上高	13,086	15,500	+18.4%
	営業利益	1,604	1,750	+9.1%
ビジネス インテリジェンス	売上高	7,084	7,700	+8.7%
	営業利益	452	550	+21.7%

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、予想につきましては様々な不確定要素が内在しておりますので、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。

株主還元について

自己株式の取得・消却について

自己株式の取得および自己株式立会外買付取引（ToSTNeT-3）による自己株式の買付けならびに自己株式の消却（2019年5月10日公表）

取得した株式の総数	1,000,000株
取得株式の総額	898,000,000円
取得の方法	2019年5月10日の終値898円で、2019年5月13日午前8時45分の東京証券取引所の自己株式立会外買付取引（ToSTNeT-3）において買付の委託を行った
取得および消却の理由	経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行するために自己株式の取得を行うとともに、資本効率の向上を図るために自己株式の消却を行うもの
消却する株式の総数	上記「取得した株式の総数」により取得した自己株式の全株
消却予定日	2019年5月31日
発行済株式総数（自己株式含）	41,426,000株（2019年3月末現在）

利益配分について

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営上の最重要課題のひとつとして位置づけており、連結業績をベースに、配当と内部留保のバランスを考慮した利益配分を行うことを基本的な考え方としております。

また、連結の配当性向は**35%**を目標にしております。

	1株当たり 期末配当金 (円)	配当性向 (連結) (%)	純資産配当率 (連結) (%)
2019年3月期	22.00	31.7	3.1
<u>2020年6月期</u> 予想	30.00※	—	—
(ご参考) 年間(12か月分)配当	24.00		

※決算期変更に伴い、当期は2019年4月1日～2020年6月30日の15か月決算となります。当該配当金は、**15か月分の金額**となります。

appendix

各セグメントのグループ会社構成

2019年4月1日現在

マーケティング支援（消費財・サービス）

(株)インテージ

(株)インテージリサーチ

(株)アクセス・ジエーピー

(株)IXT

INTAGE USA Inc.

英徳知市場諮詢（上海）有限公司

INTAGE (Thailand) Co., Ltd.

INTAGE VIETNAM LIMITED
LIABILITY COMPANY

INTAGE INDIA Private Limited

INTAGE SINGAPORE PTE. LTD.

CONSUMER SEARCH
HONG KONG LIMITED

PT. INTAGE INDONESIA

マーケティング支援（ヘルスケア）

(株)インテージヘルスケア

(株)協和企画

(株)医療情報総合研究所

(株)プラメド

Plamed Korea Co.,Ltd.

ビジネスインテリジェンス

(株)インテージテクノスフィア

(株)データエイジ

(株)ビルドシステム

エヌ・エス・ケイ(株)

各セグメントの主な事業内容



2019年3月 連結売上高

539億86百万円



マーケティング支援
(消費財・サービス)

63%

338億
15百万円

パネル調査 (SRI、SCIなど) /
カスタムリサーチ (オンライン、オフラインなど) /
コミュニケーション領域 / 海外子会社 (アジアおよび米国) /
官公庁案件 / コンサルティング



マーケティング支援
(ヘルスケア)

24%

130億
86百万円

一般用医薬品調査・医療用医薬品・医療機器調査 /
CRO (医薬品開発業務受託機関) / パネル調査 (SDI) /
処方情報分析 / 医療経済 / 広告代理店 (医療分野)



ビジネス
インテリジェンス

13%

70億
84百万円

ITソリューション / システム開発 / IT基盤構築 / 研究開発
(特に旅行、医薬、健康情報、AI分野)

Memo

A series of horizontal dashed lines for writing.



株式会社インテージホールディングス

www.intageholdings.co.jp/